

# 本の扉

1月号  
2026.1.9

前橋東高校 図書委員会  
1年1組・1年2組

少し遅くなってしまいましたが、明けましておめでとうございます！今年も「本の扉」では、図書委員おすすめの本をたくさん紹介していきたいと思います。新刊も続々入ってきますので、図書室にもぜひ足を運んでみてください。今年もよろしくお願ひします！！



## 『流浪の月』

(著者:風良ゆう／出版社:東京創元社)

女児誘拐事件の背景にあった真実とは？過去の出来事によって社会から偏見の目を向けられる主人公たち。問題を抱えている関係でも、自分なりの幸せや自由を手に入れようと少しずつ前に進んでいきます。自分が「普通」ではないことに苦しみ、間違いを犯し、それでも歩み寄ってくれる人がいるという優しさに出会える一冊です。



## 『窓の魚』

(著者:西加奈子／出版社:新潮社)

カップル2組が温泉宿を訪れるお話です。様々な感情やコンプレックスを抱えているそれぞれの視点から語られることで、人と人とのずれや捉え方の違いを感じさせられます。全体的に静かな印象があり、猫や鯉などの言葉が象徴的に使われていたり、文章の表現の幅が広かつたりするため、自分なりの解釈を楽しめる物語だと思います。



## 『きみはポラリス』

(著者:三浦しをん／出版社:新潮社)

恋愛をテーマに書かれた短編小説集です。様々な形の恋愛が集められていて読みやすい一冊だと思います。また、同性愛や年齢差のある物語もあるので多様性の理解を深めるきっかけにもなるのではないかでしょうか。

題名のポラリス（北極星）は古くから方角の目印として使われています。そこにもメッセージ性があり、それにちなんだ表紙の絵もきれいでお気に入りです！



### 『バッテリー』

(著者:あさのあつこ／出版社:角川文庫)



この本は、中学生の野球を通して友情や青春を描いた青春小説です。お互い本気で野球に向き合う中で、少しずつお互いを理解し、お互いの大切さに気付かされるような物語です。スポーツの場面だけでなく、友達との関係や自分の弱さに向き合う姿がリアルに描かれており、読み終わった後に心に残る作品です。部活をしている人や交友関係に悩んでる人におすすめです。



### 『手紙』

(著者:東野圭吾／出版社:文藝文庫)

この本は、犯罪を犯した兄をもつ弟の人生を描いた小説です。服役中の兄から届く手紙によると、弟は進学や就職、恋愛の場面で差別や偏見に苦しむことになります。物語を通して、罪を犯した人の家族の責任とは何か、人を許すとはどういうことかを考えさせられるような作品です。現代の社会問題について深く考えたい人におすすめの一冊です。



### 『ミッキーマウスの憂鬱』

(著者:松岡圭祐／出版社:新潮社)

東京ディズニーランドで働くことになった21歳の後藤大輔は、華やかなオステージと地味なバックステージの現実の狭間で悩みながら仲間と働いていく。夢と魔法の王国を舞台にしつつ、努力しても簡単には報われない厳しい現実が描かれるが、やがて主人公は仕事の意義を見出し、誇りと成長を手にする。王道の青春成長ストーリーです。ぜひ一読してみてください。



### 『ミッキーマウスの憂鬱ふたたび』

(著者:松岡圭祐／出版社:新潮社)

東京ディズニーランドで清掃のアルバイトとして働く永江環奈は、仕事を認めてくれない家族と報われない現実に悩んでいた。そんな中、園の顔である《アンバサダー》の存在を知り、前例のない清掃スタッフからの挑戦を決意する。不可能だと言われながらも仲間の応援を力に夢へ進む彼女。選考会当日に起こる騒動を通して、挑戦する勇気と成長を描く青春小説です。ぜひ読んでみてください。



### 『パーシー・ジャクソンとオリンポスの神々 盜まれた雷撃』

(著者:リック・リオーダン／訳:金原瑞人／出版社:ぱるぱ出版)

現代のアメリカを舞台に、ギリシャ神話の神々が今も生きる世界を描く冒険ファンタジー物です。自分が海神ポセイドンの子だと知った少年パーシーは、ゼウスの雷撃盗難の濡れ衣を晴らすため仲間と旅に出ることがこの冊の大まかな内容で、神話と現代が融合した独特で不思議な世界観と、旅を共にする仲間との友情や成長が特に魅力的な小説となっています。ギリシャ神話に関する知識がなくとも、ファンタジー物として楽しめる一冊です。ぜひ読んでみてください。



### 『狼と香辛料』

(著者:支倉凍砂／出版社:KADOKAWA)

行商人のロレンスと、豊穣の神であり狼の姿を持つホロが少女の姿をとり旅をしていくファンタジー小説です。中世のような様々な街を舞台に、商売の駆け引きや経済の仕組みが物語の軸となり、知的な会話と淡い恋愛が丁寧に重なる。旅の中で育まれる信頼と別れの切なさが、魅力的小説です。Youtubeの公式チャンネルでは物語で利用した経済の仕組みについて解説があるので、知識のない人でも楽しめます。ぜひ読んでみてください。



### 『エラゴン 遺志を継ぐ者』

(著者:クリストファー・パオリーニ／訳:大島双恵／出版社:静山社)

この物語は辺境の村に住む15歳の少年のエラゴンが、狩りの途中で森に落ちていた不思議な青い石を見つけるところから始まります。この物語の魅力は、登場人物たちの成長、そしてエラゴンとサフィラの深い絆を感じられるところです。また、エラゴンが失敗や葛藤を経験して成長していく様子も魅力の一つです。この本は、ドラゴンや魔法、冒険などが中心のファンタジー小説です。ファンタジーが好きな人には特におすすめの作品です！



### 貸出統計(11月1日～12月22日)

	1組	2組	3組	4組	5組	計	職員
1年	0	11	12	6	13	42	39
2年	67	7	15	7	2	98	
3年	22	13	23	7	10	75	
			合計			215	254